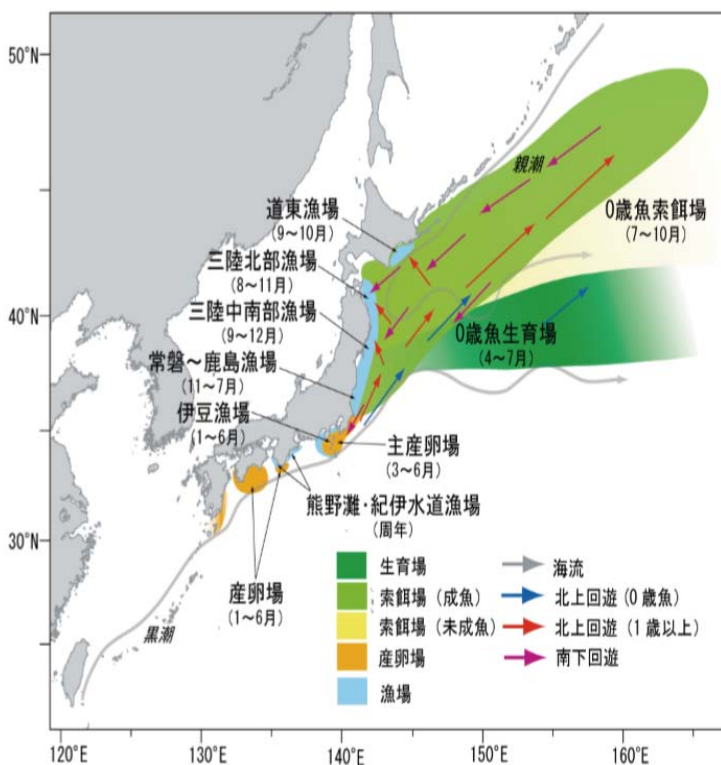




# マサバ太平洋系群 令和元年度資源評価結果

1

## マサバ太平洋系群 生物学的特性

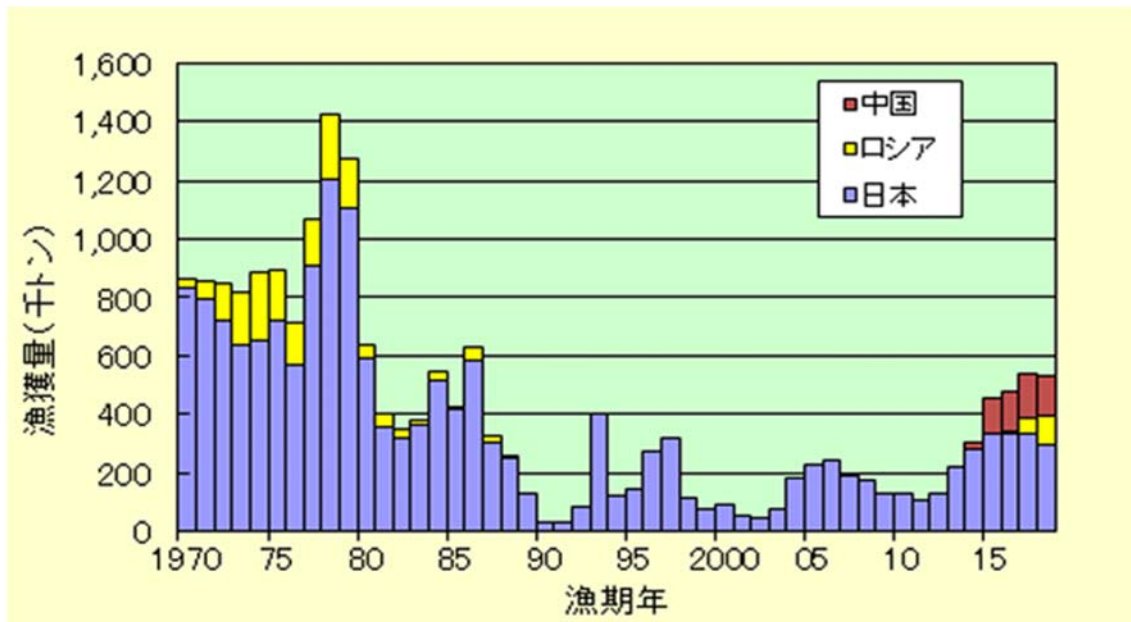


### 生物学的特性

- 寿命：7～8歳（最高11歳）
- 成熟開始年齢：1970～1975年、2015～2017年は2歳（20％）、1976～1986年は2歳（30％）、2005～2014年は2歳（50％）など、年により異なる
- 産卵期・産卵場：1～6月、主に伊豆諸島周辺海域（3～6月）、他に足摺岬、室戸岬周辺や紀南などの太平洋南部沿岸域や東北海域
- 食性：稚魚は動物プランクトン、幼魚以降はカタクチイワシなどの魚類やオキアミ類などの甲殻類、サルバ類など
- 捕食者：サメ類などの大型魚類、ミンククジラ

2

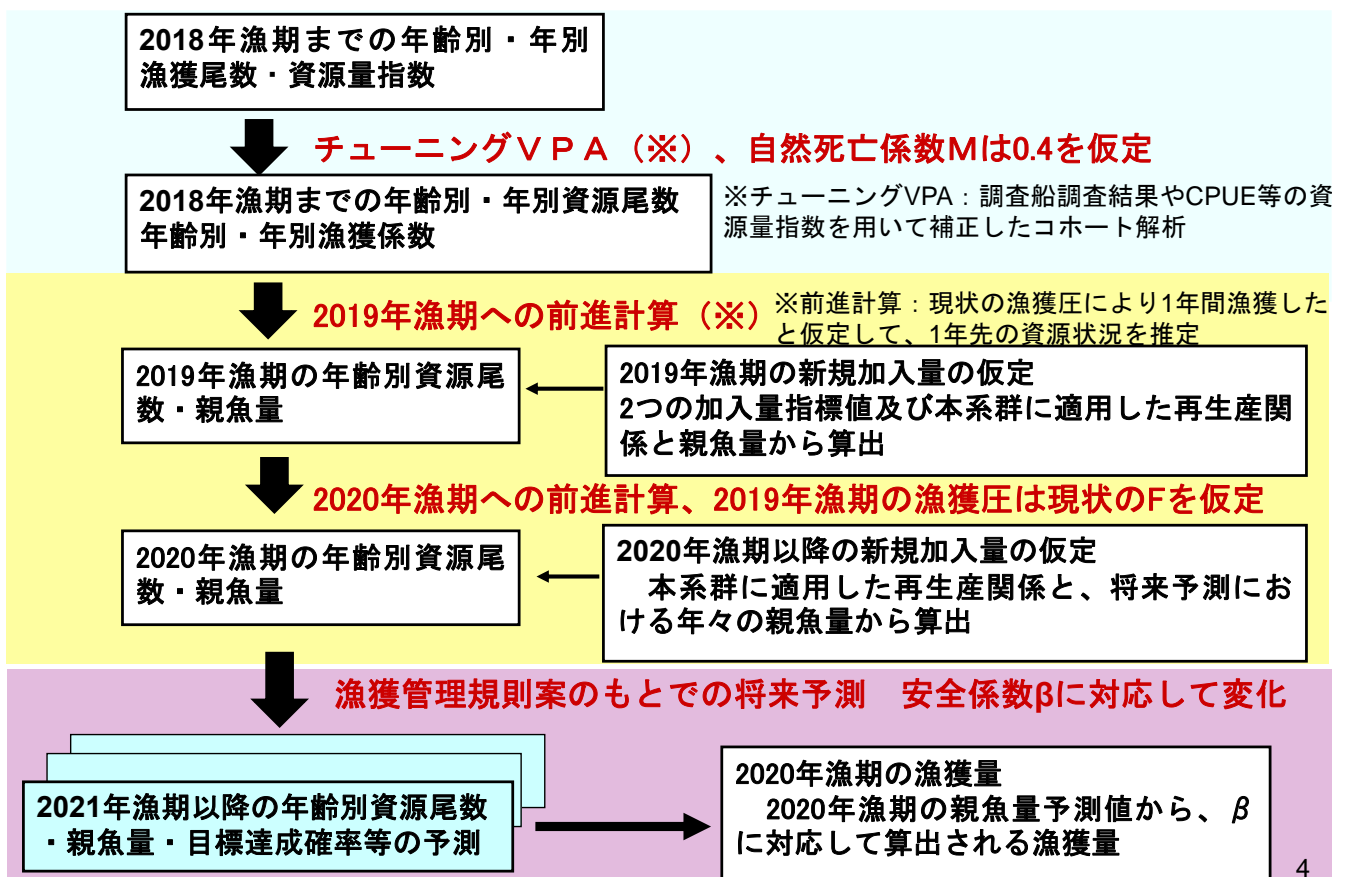
# 漁獲の動向



- 1990、1991年漁期に3万トン程度まで落ち込むが、2013年漁期以降増加
- 2018年漁期の我が国漁獲量: 29.8万トン

3

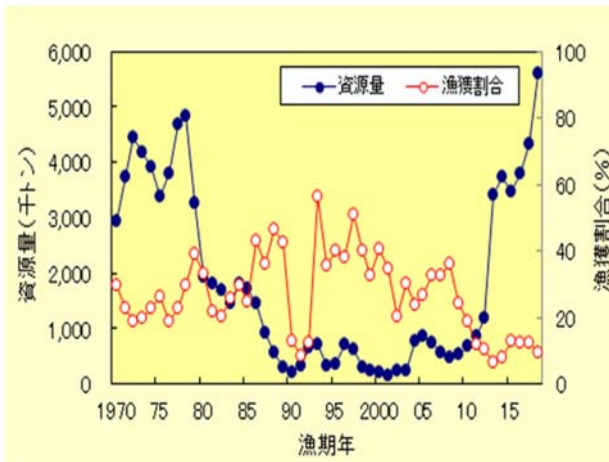
# 資源評価の流れ



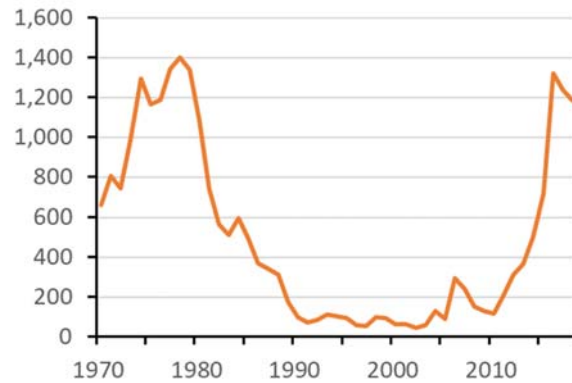
4

# 資源の動向

資源量と漁獲割合



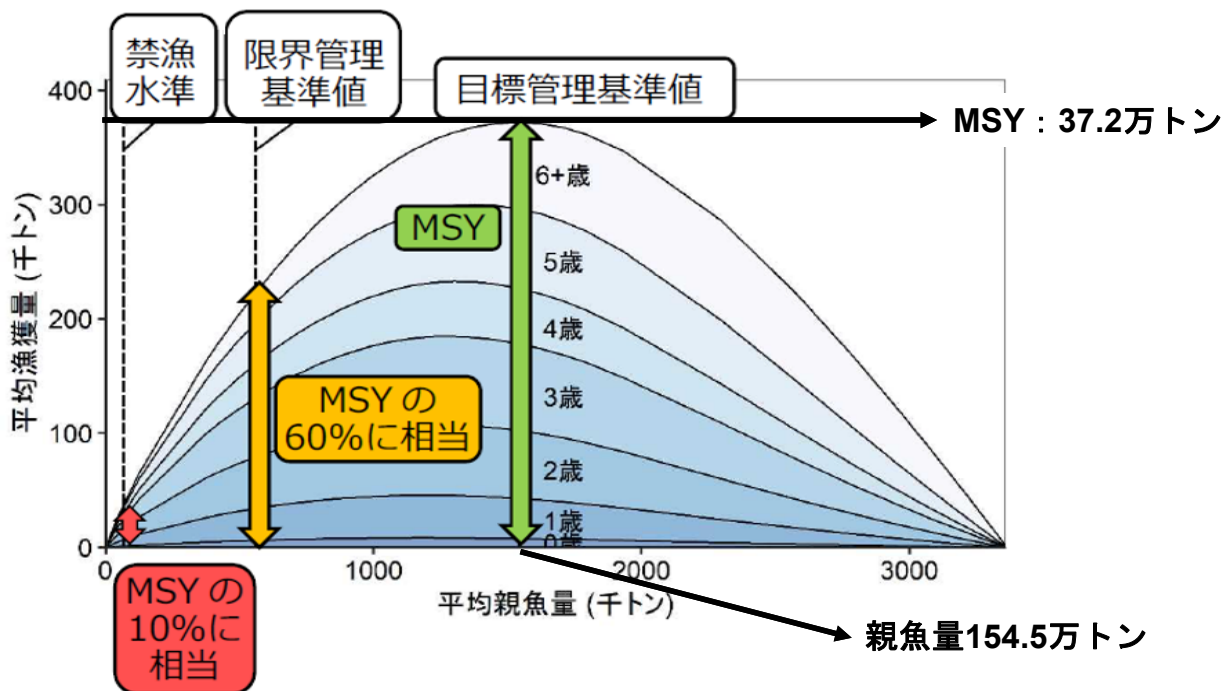
親魚量 (千トン)



- 資源量： 2013年漁期は341万トンとなり、その後もさらに増加  
2018年漁期は560万トン
- 親魚量の動向は「増加」

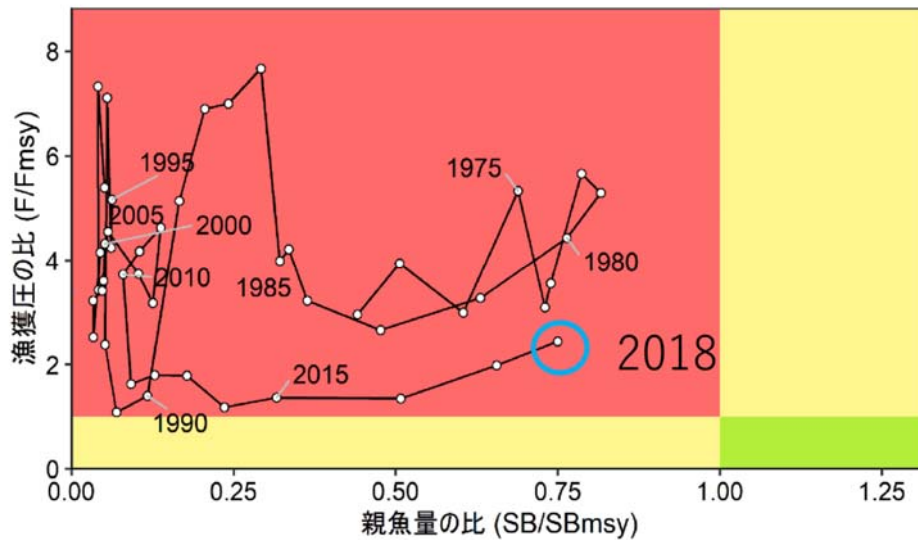
5

# マサバ太平洋系群のMSY



- 最大持続生産量 (MSY) : 37.2万トン
- MSYを実現する親魚量 (SBmsy、目標管理基準値) : 154.5万トン

# マサバ太平洋系群の神戸プロット(チャート)



※神戸プロット：資源水準と漁獲圧力について、最大持続生産量を達成する水準と比較した形で過去から現在までの推移を表示したもの

- 現状の親魚量：MSYを実現する親魚量を下回っている。
- 現状の漁獲圧：MSYを実現する漁獲圧を上回っている。

7

# 将来の親魚量及び漁獲量の推移

将来の親魚量の平均値

2030年漁期に親魚量が154.5万トンを上回る確率

$\beta$	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	確率
1	1,472	1,984	3,032	2,761	2,581	2,231	1,977	1,870	1,829	1,807	1,784	1,768	47%
0.9	1,472	1,984	3,037	2,844	2,691	2,351	2,087	1,973	1,927	1,904	1,884	1,871	52%
0.8	1,472	1,984	3,114	2,929	2,807	2,479	2,208	2,086	2,034	2,010	1,991	1,981	56%
0.7	1,472	1,984	3,156	3,017	2,929	2,617	2,341	2,210	2,153	2,126	2,108	2,100	61%

単位：千トン

将来の漁獲量の平均値

$\beta$	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
1	794	523	633	566	625	540	478	453	440	433	428	425
0.9	794	474	582	529	592	516	457	433	421	414	410	408
0.8	794	424	529	488	554	488	434	410	398	392	389	387
0.7	794	374	473	444	512	456	406	383	372	366	363	362

単位：千トン

- 親魚量が目標管理基準値以上となるような漁獲シナリオで将来予測を実施

8

## マサバ太平洋系群の広域資源管理

## 1 資源の現状（令和元年度資源評価より）

本系群の資源量は、1970年代には300万トン以上であったが、1980～1990年代に減少し、2001年漁期には15万トンまで落ち込んだ。その後、2004年漁期の高い加入量と漁獲圧低下により増加し、2013年漁期の極めて高い加入量により2013年漁期は341万トンとなり、その後もさらに増加し2018年漁期は560万トンであった。

2018年の親魚量は119万トンであり、最大持続生産量（MSY）を実現する親魚量（SB<sub>msy</sub>）は154万トンで、2018年漁期親魚量（SB2018）はこれを下回っている。2018年漁期の漁獲圧（F）はMSYを実現する漁獲圧（F<sub>msy</sub>）を上回っている。親魚量の動向は近年5年間（2014～2018年漁期）の推移から増加と判断される。

## 2 関係漁業種類

（1）大臣管理漁業 大中型まき網漁業

（2）知事管理漁業等

県名	対象漁業種類
千葉県	火光利用サバ漁業（サバたもすくい） 敷網漁業（サバ棒受網） 中型まき網漁業 定置網漁業
神奈川県	（サバ釣り漁業）※1 （サバたもすくい漁業）※2 定置網漁業
静岡県	サバすくい漁業 棒受網漁業 中型まき網漁業 定置網漁業

※1 同県内では自由漁業 ※2 他都県の許可漁業

## 3 資源管理の方向性

まさば太平洋系群について、高水準で資源を持続的に利用するためには、安定的な再生産（新規加入）の維持に必要な親魚量45万トン以上の確保が必要とされている。2018年の親魚量は119万トンであり、この水準（45万トン）を上回っていることから、今後の加入動向に十分留意しつつ、引き続き資源を維持若しくは増大することを基本方向として、公的規制のほか、資源管理計画等に基づき自主的管理を行う。

## 4 関係者による連携

行政・研究担当者会議及び漁業者協議会を通じて、資源状況や漁獲状況の把握、資源管理措置の確実な実施を図り、管理方策の改善を検討する。

## マサバ太平洋系群の広域資源管理の取組状況

### 1 大中型まき網漁業の取組状況

(1) 資源管理計画における自主的管理措置  
毎月5日以上 of 休漁を実施している。

(2) その他に取り組む資源管理措置  
北部太平洋海区資源管理計画管理委員会が定めた「マサバ太平洋系群管理方策」に基づき、マサバの漁獲量が一定量を超えた場合に臨時休漁等を実施している。

(臨時休漁実績)

年度	休漁日数	休漁統日数 (a)	操業統日数 (b)	削減率 (a/(a+b))
2006漁期(7-6月)	24日	755 統日	1,898統日	28%
2007漁期(7-6月)	31日	883 統日	2,289統日	28%
2008漁期(7-6月)	33日	933 統日	1,964統日	32%
2009漁期(7-6月)	31日	970 統日	1,611統日	38%
2010漁期(7-6月)	26日	843 統日	1,291統日	40%
2011漁期(7-6月)	25日	743 統日	1,474統日	34%
2012漁期(7-6月)	10日	217 統日	1,742統日	11%
2013漁期(7-6月)	22日	583 統日	2,262統日	20%
2014漁期(7-6月)	32日	791 統日	2,116統日	27%
2015漁期(7-6月)	58日	1,425 統日	2,470統日	37%
2016漁期(7-6月)	71日	1,517 統日	2,315統日	40%
2017漁期(7-6月)	69日	795 統日	2,032統日	28%
2018漁期(7-6月)	27日	811 統日	2,325統日	26%
2019漁期(7-6月)	30日	868 統日	2,104統日	29%

2 各県関係漁業（中型まき網漁業、サバたもすくい網漁業等）の自主的管理措置とその取組状況

対象漁業種類	都県名	管理措置	内 容 等
火光利用サバ漁業 （サバたもすくい） 及び敷網漁業（サバ 棒受網）	千 葉	休漁	毎週金曜日
サバ釣り漁業	神奈川 <small>（みうら漁協）</small>	休漁日の設定	6～8月 毎週土 9～5月 毎週土及び毎月 第2・第4火曜
	<small>（横浜市漁協）</small>	操業時間規制	5～9月 投錨5時30分、 操業終了15時 10～4月 投錨6時、 操業終了15時
	<small>（横浜市漁協）</small>	休漁日の設定	毎週火・土
	<small>（横浜市漁協）</small>	操業時間規制	4～9月 5時から16時 （出港時から帰港時） 10～3月 5時30分から16時 （出港時から帰港時）
サバたもすくい	神奈川	休漁日の設定	毎週金曜日
サバスくい網漁業及 び棒受網漁業	静 岡	操業日数制限	1ヶ月間の操業日数 20日間 以内
中型まき網漁業	静 岡 <small>（根拠地：伊豆東岸）</small>	休漁	連続した14日間の係船休漁 （6月、11月～翌年5月）及 び月3日の定期休漁
	<small>（根拠地：駿河湾内）</small>		月4日の定期休漁